

4. 参考資料

(1) 視覚障がいとコミュニケーション手段に関すること

視覚障がいとは

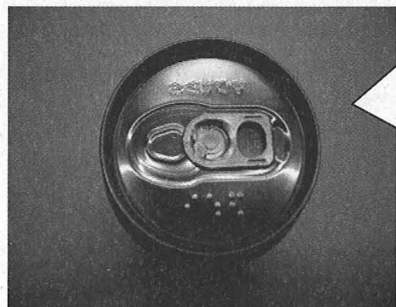
- 視機能（見ること）は、視力、視野、色覚、明暗順応、眼球運動、調節、両眼視などの各種の機能から成り立っています。視覚障がいとは、これらの機能のいずれかが低下したため、見ることが永続的に不可能または不自由になった状態を意味します。眼は、外界からの情報の取り入れ口として重要な役割を果たしているため、視覚に障がいがあると、文字の読み書きといったコミュニケーションだけでなく、単独歩行や日常生活動作にさまざまな制約や困難が生じてきます。
- 視覚障がいは、見えにくさの程度によって、大きく「盲」と「弱視」に分けられます。一般的に、「盲」とは矯正視力がおおむね0.02未満で、視覚以外の感覚を用いて学習や生活を行う必要がある状態です。「弱視」は両眼の矯正視力がおおむね0.3未満で、視覚による学習や生活が可能です。しかし、視機能の障がいや見え方が千差万別であるため、文字の拡大や弱視者用レンズ等の特別な配慮が必要となります。
- 他にも、「視野狭窄」「色覚障がい」「光覚障がい」などがある人もいます。

コミュニケーション手段

- 視覚障がいのある人とのコミュニケーションでは、視覚の情報を聴覚（音声等）や触覚（点字等）の情報に置き換えて提示します。街中に設置された青信号でメロディが流れる横断歩道はその一つです。他に、聴覚情報を活用したものには録音図書や音訳テープなどがあります。最近では、デージー図書（世界の点字図書館で合意したフォーマットによってCD-ROMに記録している音声情報）のようなパソコンを利用した音声読み上げソフトや便利な情報機器がいろいろと開発されています。
- また、触覚を利用したコミュニケーション手段である点字は、社会の中に浸透してきており、身近な生活の様々な場面で使われるようになってきました。しかし、点字が読みにくい中途失明の人や、パソコンを使わない人にとっては、音声での情報がやはり重要です。
- 不必要に騒いでアナウンスの邪魔をしたり、点字ブロックの上にうっかり物を置いたり、仕事中的盲導犬を触ったりすることがないように注意するとともに、駅や階段で白い杖をついている人を見かけたら「お手伝いしましょうか。」と優しく声をかけてみましょう。

生活の中の点字

身の回りのいろいろな所に、点字が使われています。探してみよう！



お酒であることが、区別できるようになっています。

【缶ビールにある点字】



【洗濯機のスイッチにある点字】

(2) 聴覚障がいとコミュニケーション手段に関すること

聴覚障がいとは

- 聴覚障がいとは、身の回りの音や話しことばが聞こえにくかったり、ほとんど（全く）聞こえなかったりする状態をいいます。補聴器を装用すれば日常生活にさほど支障がない「軽度難聴」から、補聴器を装用しても音や話しことばの聞き取りが困難な「高度難聴」まで、広い範囲にわたる概念です。
- 聴覚障害の種類には、空気の振動（音）を外耳から中耳まで伝達・増幅させる働きに障がいのある「伝音性難聴」、振動を内耳で電気信号に変換して脳に伝える働きに障がいのある「感音性難聴」、両方が混合している「混合性難聴」があります。
- 聴力を補う手段として、音を増幅して鼓膜に伝える補聴器を活用する他に、最近では内耳に電極を挿入し直接聴神経を刺激する人工内耳の手術も行われています。

コミュニケーション手段

- 聴覚障がい者とのコミュニケーションといえば真っ先に「手話」を思い浮かべがちですが、2001年の厚生労働省による調査によれば、聴覚障がい者自身のコミュニケーション手段の状況は「補聴器」79%、「筆談・要約筆記」24.6%、「手話・手話通訳」15.4%、「読話」6.2%、「その他」17%となっています（複数回答）。
- コミュニケーション支援は、その障がいが先天性か後天性かによって、また、生育歴や障がいの程度の違い、コミュニケーション場面の違いなどによっても異なり、手話、音声、文字など多様な手段が用いられます。身振り動作も立派なコミュニケーションの手段になります。
- 聴覚障がい者とのコミュニケーション＝「手話や指文字」とステレオタイプにとらえて、「手話ができないから」としり込みするのではなく、個人の状態や場の状況に合わせて「手話」と「筆談メモ」、「身振り」と「空書き」などの組み合わせで、相手や場面に応じたコミュニケーションや支援を考えることが大切です。

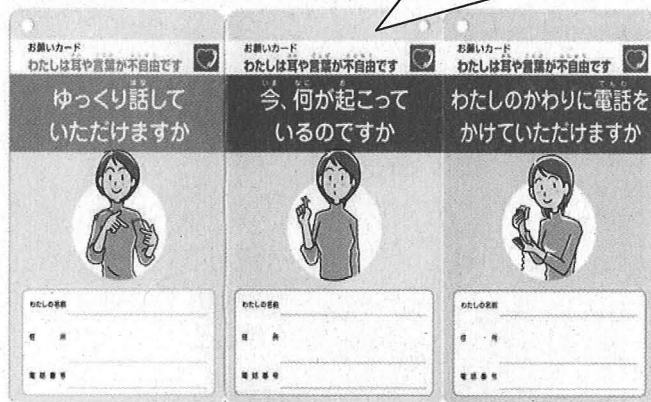
生活をサポートする道具の一例



振動によって、設定した時刻を知らせてくれます。

【振動式アラーム腕時計】

電話お願い手帳の中にある日常によく使うメッセージが書かれたカード。近くの人に協力をお願いする際に使用します。



【電話お願い手帳（カード）】

(3) 障がい教育に役立つ参考資料

ホームページアドレスは平成 22 年 3 月現在

障がい者（児）を取り巻く課題と、障がいについての理解を深めるための教育を進めるにあたって、参考になる大阪府教育委員会や大阪府教育センターのホームページや冊子です。

①「『ともに学び、ともに育つ』障害教育の充実のために」（大阪府教育委員会 平成 18 年 6 月）

幼稚園から高校までの教育現場での実際の事例を多く取り入れ、障がいのある子どもが共に学ぶ上でさまざまな支援のあり方を示しています。

<http://www.pref.osaka.jp/shochugakko/tomonimanabi/index.html>

②「精神障がいについての理解を深めるために」（大阪府教育委員会 平成 20 年 5 月）

精神障がいについての知見、当事者の思いについて学ぶことのできる資料、学校などでの実践事例や教材をまとめています。

<http://www.pref.osaka.jp/shochugakko/syougaiyouiku/index.html>

③「ともに学び ともに育つ 一貫した支援のために」（大阪府教育委員会 平成 20 年 10 月）

障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援を効果的かつ継続的に行うための「個別的教育支援計画」の必要性や、作成の参考となる様式例などを示しています。

<http://www.pref.osaka.jp/attach/5023/00000000/shienkeikaku.doc>

④「明日からの支援に向けて」～高等学校における発達障がいのある生徒に対する適切な指導と支援のために～（大阪府教育委員会 平成 20 年 10 月）

教職員が、発達障がいの生徒に対して適切な指導と支援を行う上で役立つように、理論編、事例編、資料編の 3 部構成で編纂されています。

<http://www.pref.osaka.jp/shienkyoiku/koukou-hattatsu/index.html>

⑤「LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群の理解と支援へ」（大阪府教育委員会 平成 16 年 3 月）

<http://www.pref.osaka.jp/attach/5023/00000000/LDADHD.doc>

⑥「学校全体で取り組む総合的な体制作り（気づきから支援へ）」（大阪府教育委員会 平成 17 年 3 月）

<http://www.pref.osaka.jp/attach/5023/00000000/taiseipanphlet.pdf>

⑦「高等学校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等のある生徒の理解と支援のために（改訂版）」

（大阪府教育委員会 平成 19 年 3 月改訂）

⑤⑥⑦は、通常の学級に 6 % 程度はいるといわれる LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群の子どもへの理解と支援について、わかりやすく簡潔にまとめてあります。

<http://www.osaka-c.ed.jp/tokushiken/5ri-furetto/koukourikaitoshien.pdf>

⑧「大阪府教育センター 支援教育研究室ホームページ」

大阪府教育センターが研究している支援教育についての様々な情報をみることができます。

<http://www.osaka-c.ed.jp/tokushiken/index.html>

⑨「発達障害のある子どもの支援に関する研究

ー LD・ADHD・高機能自閉症等の子どもへの通常の学級を中心とした支援の在り方ー

（大阪府教育センター 平成 19 年 3 月）

<http://www.osaka-c.ed.jp/sog/kankoubutu18/kenkyuu18/chapter05.html>

発達障がいのある子どもへの通常の学級における支援を「学習面」「学習態度」「対人関係面」の 3 項目に分け 43 の事例を用いてわかりやすく示しています。

⑩「みつめよう一人一人を」（大阪府教育センター 毎年度）

それぞれの障がい特性について基礎的な情報や対応・指導の方法のヒントが得られます。

(4) 指導資料

① 「福祉のこころ」を育てる学級づくりに役立つ福祉教育ワーク

福祉教育において体験学習を進めるにあたっては、児童・生徒が不安や緊張をもったままではその効果が半減します。プログラムの初期段階に緊張感をほぐして互いにつなぐことが必要でしょう。

そのような場面で実施すると効果的なワークを6つ紹介します。このようなワークは、「みんなが安心して過ごせる学級」にするために、互いの違いを認めあえるような雰囲気をつくっていくことに有効であり、学級開きなどの適切な時期に実施するのも効果があるでしょう。

ワーク1 「キャッチコピーで自己紹介」 ～互いを知り合う～

手順1

- 一人ずつ、自分自身のキャッチコピーを考えます。
- ※ わかりやすいように、先生がまず例を示します。
- (例) 「声の大きな〇〇先生です。」



手順2

- 先生の隣から、一人ずつ順番に自分のキャッチコピーと名前を言って自己紹介します。
- ・ 2番目以降の人は、自分より前に自己紹介した人全員のキャッチコピーと名前を言ってから、自分のキャッチコピーと名前を加えて自己紹介します。
- (例) A 「声の大きな〇〇先生の隣のサッカーが得意なAです。」
- B 「声の大きな〇〇先生の隣のサッカーが得意なAさんの隣の漫画を描くのが好きなBです。」

手順3

- 前の人の自己紹介を覚えきれなかった時には、その人からまた自己紹介を始めます。

(留意点)

- * 記憶ゲームではないので、忘れた時には横の人に聞いてよいことを、あらかじめ伝えておきます。
- * 忘れたり、間違ったりしても大丈夫！とみんなが思えるような楽しい雰囲気づくりを心がけます。

<ねらい>

- * 新しいクラスになった時に、楽しい雰囲気の中、短時間で自己紹介ができます。前の人のキャッチコピーを覚えようとして注意して聴くことで、友だちの良いところや好きなものなどを知り、お互いに理解が深まります。
- * 年度はじめの「自己紹介」としてだけでなく、「自己PR」として日頃のクラス活動にも取り入れることができます。「私の自慢」「読んで面白かった本」「幸せだなあ、と感じる時」など、テーマを決めてキャッチコピーを考えてもよいでしょう。

ワーク2 「私の仲間はだれ？」

～コミュニケーション力と仲間の大切さ～

手順1

色の異なるシールを何種類か用意して、先生が見えないようにして、子どもたちの背中にどの色かのシールを貼ります。

手順2

子どもたちに、言葉を使わずに同じ色のシールの人とグループになるように指示します。

手順3

各グループができたら、子どもたちに「どうやって同じ仲間をさがしたか。」
「今どんな気持ちか。」を聞いてみます。

手順4

色のシールが1枚しかなくて、どのグループにも入らないひとりだけのグループの子どもに、どんな気持ちか聞いてみます。

<ねらい>

- * 言葉が使えない代わりに、効果的な表情や身振り動作、身体接触などの豊かなノンバーバルコミュニケーション（非言語コミュニケーション）を体験することができます。
何とか友だちに同じ色であることを伝えようとすることで、互いに伝え合おう、つながり合おう、仲間になろうという気持ちが高まります。
- * 「自分には見えないものが人から見えていることがある。」ことに気づきます。
- * 色のシールが1枚だけしかなかったときに自分だけ仲間がいない寂しさや心細さを体験することは、仲間の大切さや少数派の気持ちを想像することにつながっていきます。

<ワーク：1～6の参考資料>

- * 「OSAKA人権教育ABC－人権プログラム－」（大阪府教育センター）
- * こどもエンパワメント支援指導事例集（大阪府教育委員会）
- * 「わたし 出会い 発見 part6」（監修 森 実・新保 真紀子：大阪府人権教育研究協議会編）

ワーク3 「私の宝物？」 ～多様な価値観～

手順1

「わたしの宝物」を6つ考えます。
紙を一人に6枚ずつ配り、1枚に1つずつ、
自分の考えた宝物を書きます。



手順2

全員が紙をもって二人1組でじゃんけんをして、勝った人は相手の紙の中から好きなものを1つもらいます。
決められた制限時間内に、相手を変えながらじゃんけんを繰り返します。

手順3

終わった後、
「友だちは、どんな宝物をもっていたか。」
「自分の宝物が相手に取られたら、どんな気持ちになったか。」など、
感想を話し合います。

<ねらい>

- * 「人それぞれ、大切にしているものがちがう」ということを知ることは、価値観の多様性に気づくことにつながります。「こんな宝物があるんだ」という新しい発見や、「他人はそう思わなくても、その人にとってはかけがえのない大切なものなんだ」という気づきから、多様な考えを認め合う集団が生まれてきます。「みんなちがって、みんないい」という学級づくりに役立つことでしょう。
- * 自分の宝物がなくなってしまった時の寂しさや喪失感を通して、大切なものを失った時の想いは相手も同じなんだという他者への共感が生まれ、自分も相手も同じように尊重しようという気持ちが育ちます。

ワーク4 「3歩下がってこんにちは！」 ～相手への信頼感～

手順1

全員が2つのグループに分かれて、向かい合って2列に並びます。
向かい合った二人がペアになります。

手順2

パートナーが確認できたら、お互い向き合った状態で両手をつなぎ、
そのまま目をつぶります。

手順3

目をつぶったまま、両手を離してお互い3歩ずつ後ろに下がります。

手順4

今度は目をつぶったまま、3歩ずつ前進してパートナーと両手をつなぎます。
手をつなげたペアは、その場で座ります。

うまく手をつなげなかったペアは、目をあけて、もう一度、手順2からやりなおします。

手順5

終わった後、うまくいくコツや難しかった点などを聞きます。

(留意点)

- * 目をつぶることに不安や抵抗を感じる子どももいるので、無理強いないように配慮します。
- * 後退・前進するときには、教師がゆっくり号令をかけると、わかりやすいでしょう。
- * 目をつぶって動く際に、子どもどうしがぶつかったり、転んでけがをしないように気をつけましょう。

<ねらい>

- * 相手のいる場所がわからない不安な状況の中で行動するためには、「相手とつながろう」という強い気持ちを持ち続けることが必要です。

前方には相手がいて必ず自分の気持ちに伝えてくれる、自分とつながるために同じように行動してくれる、という思いがなくては前に踏み出すことができません。

見事、手をつなげたときに、相手に対する信頼感を実感することでしょう。

ワーク5 あなたの「いいところ」探し

～相手のよさに気づく、自己肯定感～

手順1

6人ずつのグループになります。一人1枚ずつメッセージカードを受け取り、自分の右隣の人の名前を書いて、その人の「いいところ」を紙の1番下に書きます。

手順2

書けたら、書いた面を内側に折り曲げて、他の人に読めないようにして左の人に渡します。

手順3

同様にして、右側の人から回ってきたメッセージカードに、当人の「いいところ」を書き込み、折り曲げて左側の人へ回していきます。

手順4

最後は、5人全員が書き込んで細く折ったメッセージカードが、本人に渡されます。それを読んだ時の気持ちを、グループのメンバーに伝えます。

(留意点)

- * いいところについては、抽象的なことではなく、できるだけ具体的に気づいたことを書くようにします。

<ねらい>

- * 自分とクラスの友だちのよさに気づき、お互いの良さを認め合います。
- * 自己肯定感と他者への共感を育てます。

「あなたへのメッセージカード」

(○ ○) さんへのメッセージ

- ◇ こんないいところがあるよ。
- ◇ こんな意外なあなたを発見したよ。

← 5人目

← 4人目

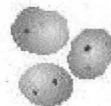
← 3人目

← 2人目

ワーク6 ジャガイモと友だちになろう！

～相手を知ることの大切さ、偏見や先入観への気づき、自分のよさの再発見～

【準備物】 人数分のジャガイモとワークシート



手順1 ワークシートを1枚ずつもらいます。

手順2 袋の中から、一人につき1個、自分のジャガイモを選びます。
ワークシートの項目を書き込みながら、ジャガイモと関係をつくります。

手順3 班をつくって、ジャガイモを見せながら、その紹介をしあいます。

手順4 お別れ前に1分間、じっとジャガイモを観察した後、全部のジャガイモを集めて袋のなかにいれ、よく混ぜ合わせます。
ジャガイモをバラバラに広げ、その中から自分のジャガイモを探し出します。

手順5 最後に、ジャガイモと別れたときの気持ち、再びジャガイモを見つけたときの気持ち、このワークの感想を書きます。

(留意点)

* 自分のジャガイモを名前と呼んで、友だちのように扱ったり、探し出すときに「〇〇を探せ。」「間違えたらあかん。」という声が出てくると、場が盛り上がって成功します。

<ねらい>

* 子どもたちは、ジャガイモを紹介する形で実は自分のことを話しています。ジャガイモに託して自分自身を見つめることで、自分のよさを再発見するきっかけになります。

* また、「外見は同じように見えながら、一人ひとりを知ってみると、実はみんな違う個性をもっているんだ。」ということ、ジャガイモを通して間接的に感じることができます。

その人を知るためには十分な時間をかけることが必要であり、よく知りもしないで決めつけてしまうことの愚かさや危険性に気づくことは、様々な状況にある友だちに対する先入観や偏見を克服することにつながっていきます。

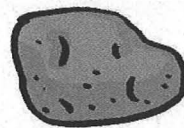
【次ページは、ワークシートの例】

「ジャガイモと友だちになろう！」

1:まず、友だちになるきっかけ・・・名前を聞いてみよう！！

◇ わたしの友だちの _____ です。(名前をつけてあげよう！)

にがおえ



2:聞いてみよう！！

☆ いま、いくつ？（何才？）

☆ 誕生日は？

☆ チャームポイント（自慢できる場所）は？

☆ 好きな食べ物は？

☆ 趣味や特技は？

3:友だちから話を聞いてあげよう！！

◎ 家族や友だちのことなどについて聞いてみよう。

◎ 夢は何だろう？ 聞いてみよう。

お別れです。・・・最後にひとこと、声をかけてあげて！！